

平成 28 年度 第 2 回羽曳野市立図書館協議会会議録（要録）

日 時： 平成 29 年 2 月 23 日(木) 午後 1 時 30 分～午後 2 時 30 分

場 所： LIC はびきの 教育研究所会議室

出席者：(委員) 岸下委員、脇谷委員、南野委員、嶋田委員、小澤委員、荒川委員、
上野委員、山田委員

(教育委員会) 高崎教育長、石井生涯学習室長

(事務局) 岩城課長、奥野館長、安東課長補佐、岩佐主幹、江夏主幹

欠席者： 菅谷委員、鈴木委員

傍聴者： なし

●開会

教育長挨拶

(教育長 公務のため退席)

●議事

事務局より、議事録の要録を WEB 及び中央図書館で紙ベースで公開することを報告
会長挨拶

議題 平成 29 年度事業計画について

事務局：(事業計画案を配布資料に基づき説明)

会長：お気づきのことなどはないか。

委員：四天王寺大学図書館との連携が開始されるとの事だが、大学図書館の蔵書リストは出せるのか。

事務局：蔵書検索については、図書館ホームページに大学図書館の蔵書検索システムのリンクを張っている。または直接大学図書館のホームページにアクセスして検索していただく。インターネット環境のない方は職員に相談していただく。

委員：四天王寺大学については、市内の教職員に貸し出ししてもらえる方向で、来月見学に行くことになっている。ボランティアとの連携事業も考えてもらっているようだが、学生が幼稚園に読み聞かせに来てもらうことがあればありがたいと思う。

事務局：図書館連携の協議を重ねている時に学内に大学図書館サポーターの学生ボランティアグループの存在を知った。グループも貴重な大学の知的資源のひとつと捉え、市立図書館のボランティア団体さんと連携・交流を深めながら行事を開催させてもらおうかと考えている。また、学生さんも活動を広げたい意向があるので、要望があったことは大学側に伝える。連携の意義も深まると思うので橋渡しをさせていただく。併せて市立図書館のボランティア団体さんの方には学生の指導を含めて連携・交流をこの場で改めてお願いします。

委員：事業計画の「朗読ボランティア・ステップアップ講座」について補足させていただく。現在のボランティアのメンバーに対して実施する。(講座で知識等を広げて) パソコンを使っての DAISY 作成に力を入れていきたい。リスナー(＝市内の利用者)は高齢化・減少の傾向にある。DAISY を全国的に利用してもらえるようになればと考えている。

- 委員：事業計画の「読書講演会」は、講師をこれから決めて9月くらいに開催したい。
- 委員：高鷲南小学校の子どもたち、6年生がテレビで放映された。テレビを見て子どもたちがしっかりしていて、いい経験をさせてもらえたと思う。
- 一人目の学校図書館司書が置かれて20年になるので資料（『羽曳野市学校図書館ニュース』第17号、「学校図書館司書配置20年の歴史」）をこの場で配らせてもらった。現在、中学校は3年で（別の中学校に）異動し、（6校あるが学校司書は）2人しかいない。駒ヶ谷小学校では単学級などで専任司書がいらない。子どもたちは図書館サービスを平等に受けられない。中学校にも司書を揃えていただきたい、駒ヶ谷小学校にも専任司書を置いてほしい。
- 市立図書館からセット資料を提供してもらっており助かっている。
- 委員：学校司書が『ヨークヨーム』を作成していることがいいことだと思っている。
- 委員：司書だけでなく5・6年生も加わって作ってもらった。4月には中学1年生にも配布したいと思う。
- 委員：大人対象の事業に取り組んでいないと言ってきたが、「大人の手づくり教室」「暮らしに活かすマネー講座」が計画に入っており、今までにない取り組みでうれしく思う。うまく催しもののPRをしてほしい。
- 四天王寺大学連携の件だが、市立図書館の本を大学図書館に貸し出す、ということにはなっていないのか。
- 事務局：学生は在学ということで利用できる。大学も団体貸出として利用できる。
- 委員：（今後）相互に活用できるようにしてほしい。羽曳野市民から市立図書館では‘歯ごたえ’のある本が少ないとの声を聞いた。応えられるような選書にシフトする必要もあるのかも。
- この時期なので、来年度の予算の状況はどうか。
- 事務局：議決前だが、資料費は前年並み。
- 委員：箕面市では大学で市立図書館の本を利用できる。こういうこともあっていいのでは。
- 委員：四天王寺大学の件、個人貸出はないということだったが。
- 委員：一般の方に貸出することについてはどうか。
- 事務局：館内閲覧で始めることとした。大学図書館はこれまで原則一般開放されていなかった。連携事業については今後も利用方法を含め、両方で先進事例等研究し協議を行うことになっている。
- 委員：毎月第4金曜日は仕事が早く終わる制度（＝プレミアムフライデー）が始まる。大人をうまく使えないだろうか。大人のための絵本を紹介するなど図書館でもらえたら。
- 事務局：プレミアムフライデーは図書館としては大人を集めるチャンスかと思う。この制度で事業展開できないか考えてみたい。
- 絵本は自分も読む、家族と読むこともある。そんな折、これはいい絵本だと思ふことがある。
- 委員：大人のための絵本は私も賛同している。大人が絵本に興味を持ったり、絵本を読んで泣いたりするという話を聞く。
- 委員：親が読める、親子で話し合いができる、そんな絵本がないか聞かれることもあるので紹介している。
- 委員：読みメン、お父さんが絵本を読む企画も考えてもらったらどうか。
- 事務局：アベノの書店で絵本の読み聞かせをしていた。途中から英語の本になったのだが、子どもたちはそれに反応していた。
- 事務局：今年度、陵南の森図書館で実験的に英語のおはなし会をやってみた。学生ボランティアとの連携内容としても考えたい。
- 委員：（英語の絵本を読むことを）昔やったことがある。英語が堪能な母親から、正しい英語・発音か

との意見があった。

事務局：陵南の森図書館の英語のおはなし会はネイティブの方に協力をいただき好評だった。続けてやりたいが、検討していく。学生ボランティアに英語でやってもらう機会があれば、日本人の学生がするということを周知したい。

委員：英語のおはなし会について、小学校で英語が必修になるが、英語圏以外の人への眼差しも忘れずにいてほしい。

事務局：今のご意見は頭に入れておく。公立の図書館として意識は持っていきたい。

委員：羽曳野市には国際交流ボランティアがある。アジア系が多いか。利用・相談されてはどうか。

事務局：実現可能なこと、いろいろな試みを事業展開していきたい。

会長：本日はこれで閉会します。

生涯学習室長挨拶

●閉会